

1. KARTH地震ネットとは

平成 16 年 10 月 23 日の新潟県中越地震発生約 1 ヶ月後に立ち上げた被災地の被災建物の修復情報支援ネットワーク。被災地の新潟事務局を拠点にインターネットのメール通信とブログを通して、被災地の建築的課題解決のための情報支援活動に取り組む。メール送信先：22 都府県約 200 ヶ所。 KARTH 地震ネットブログ(常設) <http://karth-net.at.webry.info/>

2. 東日本大震災での取り組み

(1) 目的

阪神・淡路大震災を含むこれまでの各地の被災地での教訓を踏まえ、同じ悲劇を二度と繰り返すことなく、復旧過程も含めて地震被害を最小限に抑え、人々のいのちと暮らし、コミュニティ、地域固有の木造住文化等を大切に護り活かした地域再生・復興を迅速に進め、地震大国日本の各地で地域特性を活かした修復文化が根付くための情報支援を行なう。

(2) 活動内容

A. 被災地の被災宅地・建物の修復情報支援

イ) 被災地で直面している、また、近々直面する可能性の高い課題の解決に役立つと考えられる情報の継続発信

< 第 1 段階 > 被災地で役立つと考えられる建築的課題の支援情報の収集
特別版ブログへの掲載・発信(継続)

KARTH 地震ネット東北地方太平洋沖地震特別版ブログ

<http://karth-tohoku.sblo.jp/>

KARTH 地震ネット長野県栄村ブログ <http://karth-sakae.sblo.jp/>

KARTH <http://karth.blog13.fc2.com/>

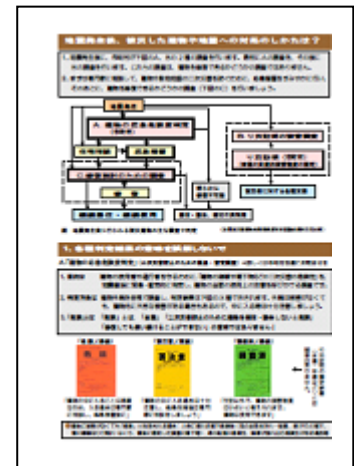
< 例 > 余震の継続と今後の誘発地震の危惧の中で、梅雨による 2 次災害を防ぐための具体策(再調査含む)の提案情報の整備・発信。

< 第 2 段階 > 地震発生後の各段階の課題解決につながる提案がある程度整理できた段階での、市民向け・建築実務者向けの指針の整備、情報発信(A4 版 1~2 枚程度)。

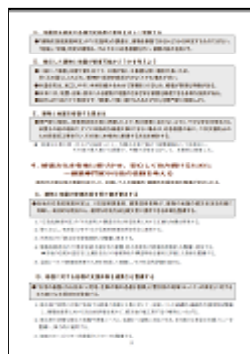
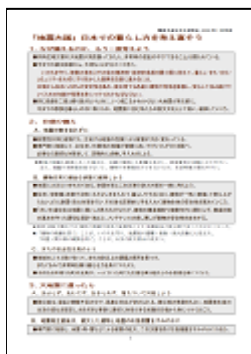
< 第 3 段階 > 第 2 段階で整備したチラシ等の編集、市民向け・建築実務者向けの「被災建物・宅地の修復手引き(ダイジェスト版)」の整備、普及啓発



新潟被災住宅修復調査報告書
「大地震に備えて手を打つための処方箋
被災住宅修復支援プロジェクトから
全国につなぐ震災の教訓」
(A4 版 82 ページ、第 1 版平成 20 年 2 月発行、
改訂版平成 21 年 1 月発行)



市民向け「地震発生後の被災建物の
対処の仕方」チラシ
(A4 版 1 枚、両面、第 1 版 平成 19 年作成)



「地震大国日本での暮らし方を考え直そう」チラシ(A3 版 1 枚両面、第 1 版 平成 21 年 1 月作成)

< 課題 > 情報の混乱の中で、被災地の人々(住民・行政等) が求めている情報がタイムリーに被災地に届くような建築情報支援ネットワークの整備

ロ)被災建物・宅地の修復支援ネットワークの構築(長期的継続活動)

1)目的

地震大国の日本では各地で近い将来大地震発生が危惧されており、東日本大震災でも余震の長期化や誘発地震の発生が危惧されている。その中で特に地域固有の木造伝統住文化は、様々な理由で復旧過程で一気に消滅する可能性が高い。

そのため、同時多発広域災害の地震発生直後の適切な時期に、全国レベルでタイムリーに被災地の被災建物・宅地の修復支援を行ない、被災時の減災及び、暮らし・コミュニティ・地域固有の木造伝統住文化等を大切に護り活かした地域再生・復興を迅速に進めるための修復情報支援ネットワークを整備する。

建築専門家の支援が求められる最も重要な時期は、「地震発生直後から住民が被災建物の対処の仕方を決定するまでの期間」

被災地の住民を迅速かつ継続的に支援する被災地の建築組織と全国レベルの後方支援の初動体制の整備

2)活動内容(主対象は伝統構法の木造住宅)

被災建物・宅地の修復技術の支援協力メンバーの整備・登録(現在、募集中)

被災建物・宅地の修復技術を習得するための建築実務者向け勉強会の継続開催

(例)各地の被災建物の応急危険度判定士や被災証明調査者、建築技術者が、初めて訪れた被災地においても、建物や地盤の被災状況・原因を適切に診断し、被災地の地盤・建物特性をふまえて、総合的な視点から適切な対処方法を被災者に提示できるような技術情報を共有する。

地震被災地の現地での修復支援協力活動

A. 地元の建築実務者向けの被災建物・宅地の修復技術の勉強会開催協力

B. 地元の市民向けの被災建物・宅地の対処の仕方の勉強会開催協力

C. その他の修復技術情報支援、調査協力

「被災建物・宅地の修復の手引き」の作成と被災地への配布、普及啓発(対象:市民、建築実務者向け)

被災地に、地元の地域の特性を活かした修復文化を伝えていくために、上記の活動成果を指針として整備する。

B. 長野県栄村の被災建物修復支援

イ)長野県栄村の被災建物修復相談会の開催協力(4月16日)、情報支援のためのブログ立ち上げ

ロ)今後の支援協力方法を現在調整中。

・(基本方針)被災地の地元住民が直面している建築的課題に対して、住民が適切な判断ができるような専門的情報支援を行う。地元の建築専門家が主体となり、外部の応援メンバーは后方支援で。

上記活動にご協力いただける方は下記までご連絡下さい。

連絡先 関西木造住文化研究会(略称 KARTH:カーズ, Kansai Association for the Research in Traditional Housings)

京都市上京区上立売通浄福寺西入ル姥ヶ東西町 632、〒602-8485

TEL 075 411 2730 悠(ユウ)計画研究所内、FAX 075 411 2725

E-mail info@karth.sakura.ne.jp <http://karth.blog13.fc2.com/>

KARTH地震ネット 本部 責任者:田村佳英、編集:武田眞理子、HP:藤原哲也、ブログ:上田和孝

新潟事務局:長谷川順一、東海事務局:東海林 修